

奈良医大リハビリ医学講座他と(株)三笠は 手指機能強化手袋を開発 パーキンソン病患者の手指筋力改善に有効

- ・奈良医大のリハビリテーション医学講座（城戸顕教授、眞野智生准教授）・脳神経内科講座（杉江和馬教授）と株式会社三笠（甘利茂伸代表取締役社長：横浜市）は共同で、(株)三笠が保有の特殊編み技術を用いて手指機能強化手袋（写真1）を開発しました（特許取得済み）。
- ・5日間の装着でパーキンソン病患者の手指筋力を改善させる可能性があることを、世界で初めて臨床研究で確認したことを6月24日（金）メディアに発表し、併せて第59回日本リハビリテーション医学会学術集会（於:横浜市）でも発表しました。



写真1：手指機能強化手袋外観



写真2：手指機能強化手袋装着状態

- ・本開発の手袋は、各指関節に力を作用させる編み方と糸を工夫して、写真1に示すように、予め手の甲側に向けて反り返っており、装着すると写真2のように掌を開く方向に力が働きますので、手を握るとか、指で物をつかむときは反力に打ち勝つ筋力を要します。
- ・装着したまま普段通りの生活動作を行うことで手指機能を強化することにつながります。
- ・図1は、パーキンソン病患者15名が本開発手袋を5日間装着して普通に生活した結果の筋力変化を示しています。特に、つまみ力で筋力の改善がみられています。

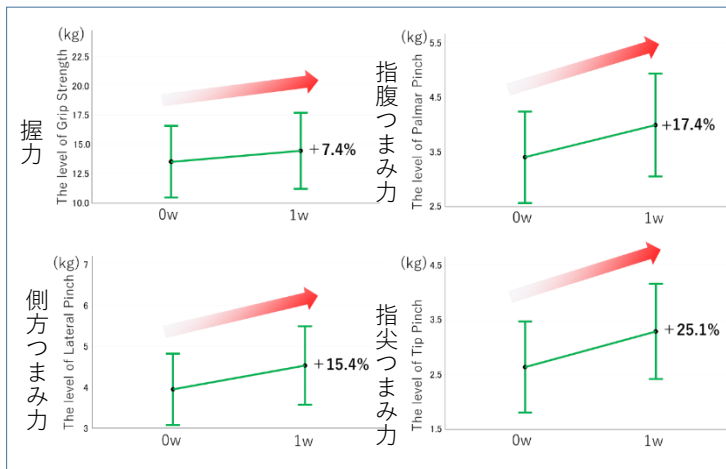


図1：装着5日間後の筋力変化

- ・本開発の手袋は、医療機器として全国のリハビリテーション治療を行う病院のみならず、アスリートの筋力増強訓練機器や、高齢者のフレイル予防機器としての市場も期待できます。